

4. 郷土を開いた人々【「わたしたちの北上町」(平成8年3月15日発行)を抜粋】

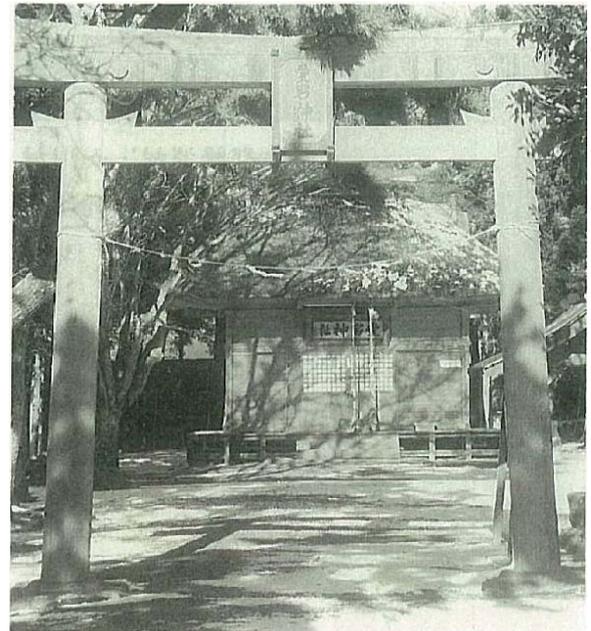
今から約370年前、仙台藩主・伊達政宗は、白石の片倉重長に本吉郡志津川の海岸を守るよう命令し、今の桃生郡矢本町、河南町、北上町の各地に土地をあたえました。橋浦の大須もその一つでした。

片倉家の家来は、白石から橋浦に移り、田や畑を開いていきましたが、よしなどの生えた荒地を耕すために、大変苦勞したそうです。

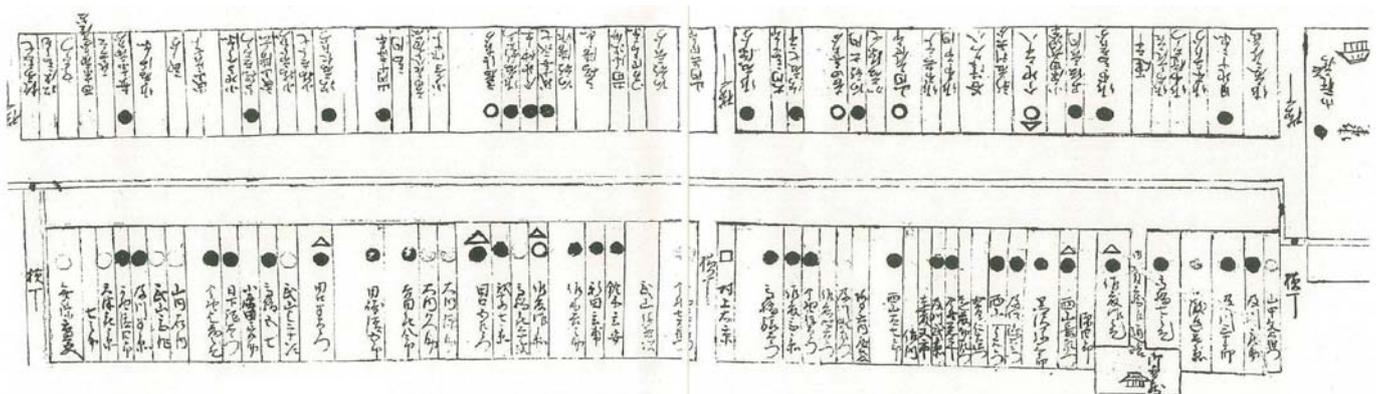
大須にある愛宕神社は、このころ、地区の守り神としてまつられたもので、神社の前にある「大須開拓碑」には、そのときの様子が詳しく書かれています。



白石から橋浦村までの移住



愛宕神社



江戸時代の大須の町なみ